



2025年6月10日

獣医療における薬学研修プログラムの開発 ～薬剤師の新たな職能拡大に貢献～

東京薬科大学薬学部薬学科 社会薬学教育センター 生命・医療倫理学研究室 櫻井浩子教授と臨床薬剤学教室 畔蒜祐一郎助教らのグループは、獣医療が高度化する中、薬剤師が薬学領域において獣医療で果たすべき役割に着目し、全国の保険薬局、ドラッグストアに勤務する薬剤師を対象に「獣医療における薬学研修プログラム」の開発を目的とし、東京海上ウェルデザイン株式会社と共同で研究を開始しました。当研究は薬剤師の新たな職能拡大につながるだけでなく、今後の獣医療の質向上に寄与すると考えています。

【ポイント】

■（成果について）

- ・薬剤師向けの e-learning 研修講座を作成する
- ・教材の視聴による知識・意識向上について受講者アンケートを行い、結果を踏まえ、今後の教材整備の在り方について検討する

■（研究の背景）

- ・薬剤師法第19条において、薬剤師でない者は、販売又は授与の目的で調剤してはならないと定められている。ただし、獣医師が自己の処方箋により自ら調剤するときは、この限りでない。
- ・ペットの高齢化や高度医療の進展に伴い、獣医療において専門的な薬学的サポートが求められている

【概要】

犬猫の飼育数が出生数を上回り、寿命延伸や医療技術の進展で動物医療は高度化しています。また薬剤師法第19条において、「薬剤師でない者は、販売又は授与の目的で調剤してはならない」と定められており、獣医療においても薬剤師の専門性は大きく期待されます。

他方で、獣医領域の学習機会不足が大きなハードルとなっており、そこで保険薬局・ドラッグストア勤務の薬剤師向けに、「獣医療における薬学研修プログラム」を開発することを目的に東京海上ウェルデザイン株式会社と共同で研究を開始しました。

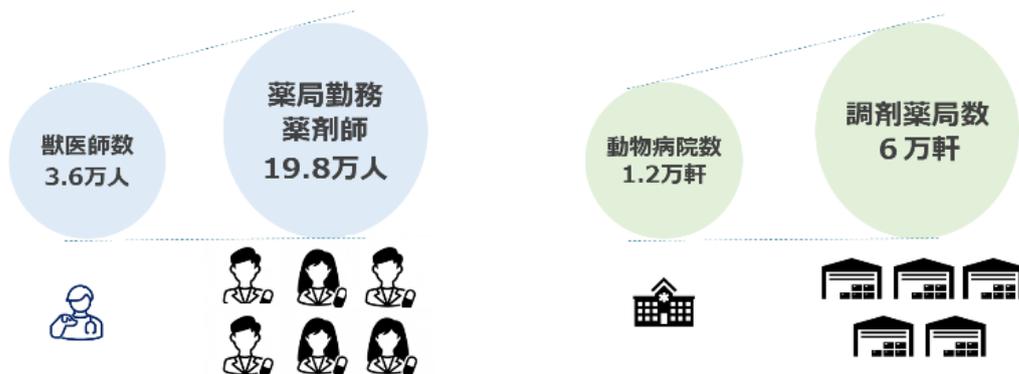
カリキュラムは、獣医薬理学、機能形態学、適正飼養学、飼い主対応、投薬技術、服薬指導、法規・倫理などをオムニバス形式で構成、教材の視聴による知識・意識向上について受講者アンケートを行い、結果を踏まえ、今後の教材整備の在り方について検討します。

本プログラムにより獣医療領域における薬剤師の新たな職能拡大につながると考えます。さらに獣医師・愛玩動物看護師との連携強化につながり、飼い主に対して安心・安全な医療を提供に資すると考えます。プログラムは2025年9月開講、2026年3月までにアンケートを集計予定。日本保険薬局協会・スギホールディングスと連携し、薬剤師職能拡大に貢献いたします。

- ・ 獣医療において、限られた人員の中での医薬品管理（規制医薬品、在庫）、最適な調剤（注射剤、分割などの加工）体制の確保に課題がある
- ・ 全国に6万軒調剤薬局、薬剤師のリソースが存在し、それらを活用することで課題解決につながらないか

全国調剤薬局に約20万人の薬剤師が存在

全国に約6万軒の薬局が存在



地域の薬局リソースの活用可能性について

研修講座概要（計 8 コマ）

獣医薬理学(2コマ)	日本獣医生命科学大学 獣医薬理学研究室	教授 金田 剛治(獣医師)
機能形態学	ヤマザキ動物看護大学 動物機能形態学研究室	教授 今村 伸一郎(獣医師)
愛護・適正飼養学・保定	麻布大学 獣医臨床看護学研究室	講師 小野沢 栄里(愛玩動物看護師)
飼い主とのコミュニケーション・ペットロス	麻布大学 介在動物学研究室	教授 菊水 健史(獣医師)
獣医療関連法規・愛玩動物における倫理	東京薬科大学 生命・医療倫理学研究室	教授 櫻井 浩子(獣医師)
製剤学、投与方法、チーム獣医療、飼い主の犬・猫アレルギー	東京薬科大学 臨床薬剤学教室	助教 畔蒜 祐一郎(薬剤師)
薬剤管理・服薬指導	日本小動物医療センター 薬剤部	薬剤師 大熊 優美(薬剤師)

【取材に関するお問い合わせ先】

東京薬科大学 入試・広報センター TEL:042-676-4921 mail:kouhouka@toyaku.ac.jp

【研究に関するお問い合わせ先】

東京薬科大学 薬学部生命・医療倫理学研究室 教授 櫻井浩子

TEL:042-676-1620 mail:sakurai@toyaku.ac.jp